

Book Review



開業歯科医のための 小外科手術 CheckPoint

神部芳則 編著

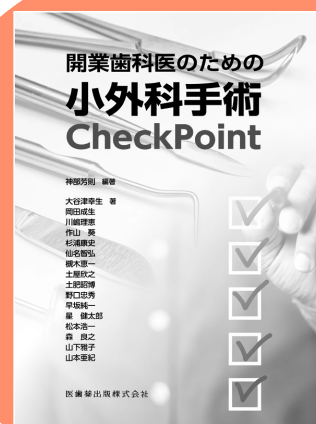


Reviewer

片倉 朗 Akira Katakura

(東京歯科大学 水道橋病院長、口腔病態外科学講座教授)

A4 判変, 160 頁
オールカラー
定価 9,900 円
医歯薬出版刊



日常の臨床は保存・補綴処置が中心ですが、その間に抜歯や膿瘍切開など口腔外科の小手術を行う機会も多いと思います。口腔外科処置はいったん始めてしまうと完結しなければ患者さんを帰らせることはできず、また臨機応変な止血処置や縫合などの的確な手技を求められるため、普通抜歯といえども意外とプレッシャーを感じてしまう先生も多いと思います。

本書はそんな先生方が安全に自院で口腔外科の小手術が行うことができるようにと、国際医療福祉大学病院 歯科口腔外科の神部芳則教授が、口腔外科の現場で活躍されている先生方とともに、本誌に 2016 年の 1 年間連載された内容に詳しい解説と多くの図や写真を加えて、診療室でも見やすく編集された一冊です。研修医やこれから自分で小手術を行う若手の先生方に向け

てまとめられていますが、臨床経験を積まれた先生も最新の知識を取り入れて、我流でなく口腔外科の基本に忠実な器具の操作と術式で、スムーズかつ安全に小手術を行うための再確認に最適な一冊です。

内容は 3 つの Part で構成されています。Part 1 は患者さんから正確に情報を聞きとるための医療面接、注意すべき既往や薬剤とそれらに対する歯科治療の際の対応が解説されています。Part 2 では縫合や抜歯など口腔外科の基本的な手技から始まり、埋伏歯抜歯・歯根端切除術・補綴前外科・外傷歯・歯の移植など、一般臨床での口腔外科の高頻度の処置が、器材準備とともに大きな写真で手順に沿って解説されていて、自分が行う前に術式を確認するためにうってつけです。Part 3 では術後の処方や感染・出血・腫脹・神経麻

痺などの合併症への一次対応が、端的に書かれています。

抜歯や膿瘍切開は歯科医師としての日常で避けられない処置だと思います。しかし一般の診療所で、先の読みにくい口腔外科処置は、患者さんにも術者にもストレスがかかります。地域によっては歯科を受診する患者さんの 70% 以上が高齢者になっている今、患者さんはさまざまな身体的なリスクをもって来院します。最新の正しい知識でリスクマネジメントをして、我流ではない王道の口腔外科の手技と術式で安全に小手術を行えるようにしておくことが、ますます必要になっていきます。

そのために本書は最適で、ぜひとも手元に置いて処置のたびに繰り返し読んでいただきたい一冊です。